

『少年の主張 群馬県大会』

9月16日(土)群馬県公社総合ビルにおいて、「第39回少年の主張群馬県大会」が行われました。本校代表の3年井上夢月さんは、市大会で伊勢崎市代表となり、「中部地区大会 最優秀賞」に輝き、各地区代表の15名とともに表現豊かな素晴らしい主張を披露してくれました。以下、井上さんの「少年の主張」を紹介します。

『愛言葉』 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 3年 井上 夢月

突然、目の前が暗くなって、足元がバラバラ崩れていって、今まで築きあげてきたもの、がんばってきた事の意味がないように思えてくる。そんな時があります。そんな闇からいつも私を引っ張り出してくれるのは、身近な人からの言葉でした。

皆さんは今までにどのような言葉に出会いましたか。思えば私は、言葉には本当に助けられてきました。でも、以前の私は言葉の大切さを実感することはありませんでした。

そんな私が言葉について意識して考えるようになったきっかけがありました。言いたくても言えなくなった言葉に後悔しました。それは祖父への「ありがとう」です。

私の両親は共働きで、父はアメリカへ単身赴任をしていました。だから私は、幼い頃の多くを祖父母と共に過ごしました。祖父は病気がちで、私が小学二年の頃、ガンを患いました。その後、入院治療と祖母の介護のいかにもあり、退院することができました。それから私は、学校が終わると毎日祖父母の家に帰りました。「ただいま、お腹空いた。」と言うと、祖父はよく、私にフワフワの卵焼きを作ってくれました。私はそれがとても嬉しくて、毎日家に帰ると、「お腹空いた。」と言っていました。そんな日常を打ち破る出来事がありました。祖父のガンが再発したのです。しばらくすると、祖父は自宅で治療するようになりました。私や兄弟は毎日祖父の所へ「ただいま。」を言いに行きました。それから半年後、いつものように学校から帰った私は、祖父が亡くなったことを聞かされました。今まで当たり前に行っていた「ただいま」も「お腹空いた」も伝わらなくなって、それまでの感謝の気持ちも届かなくなってしまいました。今でも、もっと「ありがとう」を言っておけば良かったと後悔しています。

今、私は両親と弟、そして祖母と一緒に暮らしています。祖母にはいつも助けられているし、祖母の言葉は自信をなくした私の背中をそっと押してくれます。そんな祖母には日頃の感謝の言葉をできるだけ言うようにしています。少し恥ずかしいですが、「ありがとう」とはっきり言うと、心がじんわり温かくなって、何だかほっとします。言葉って魔法みたいだと思いませんか。

言葉は大切、それは分かっているのだけれど、時には人を傷付けたり、悲しませたりしてしまう事があります。言葉は消しゴムでは消えません。でも、消えないからこそ、大切なものになるのではないのでしょうか。時には自分の言葉が人を傷付けてはいないかどうかを見つめ直す事が大切だと思います。

あなたが今使っている言葉は、愛される言葉、「愛言葉」ですか。

私はまだまだ愛される言葉を上手に使うことはできていません。毎日失敗の繰り返し。皆さんも一度はありませんか、「ああ言わなければ良かった」なんて思う事。でも失敗すればするほど、私は愛言葉を覚えていきます。失敗した事も悪い事ばかりじゃないと思えます。

言葉って難しいものです。色も形も重みも見えないのに心に強く残る、それが言葉です。私の身近にはそんな無色透明な言葉を巧みに使い、人を勇気付けたり励ましたりする事が上手な人がたくさんいます。「大丈夫だよ。」「私がいるよ。」「負けんよ。」「味方だからね」そんな言葉を言われると安心します。そして、がんばろうと強く思えるようになります。私もそんな風に言葉で人を勇気付けられる人になりたいです。

あなたは今、愛言葉を使えていますか。大切な人、身近な人へのありがとうやごめんなさいは言えていますか。言葉は、人を幸せにすることのできる魔法のような物です。言葉には人を励まし、勇気を与える力があります。私はいつも身近な人からの言葉に助けられています。だから、今度は私が誰かの背中を押してあげられるように、一つ一つの言葉を大切にしたいと思っています。

あなたも人を勇気付けられるような、愛言葉を使ってみませんか。きっと、愛される自分に一歩近づくことができるのではないのでしょうか。



<市大会の発表>